



すずき
鈴木
(至誠)

ひろむ



移住・定住施策と農山村地域の関係について

問 移住定住推進地域または農村地域への移住者の世帯数を伺う。

部長 令和5年度に移住定住推進地域に移住した世帯数は2世帯4人で、その内訳は青木平区、猪之頭地区ともに1世帯2人。農村地域への移住については、市街化区域に48世帯、市街化調整区域に11世帯、農業を目的に移住した方はいない。

問 二地域居住というスタイルが国により推奨されているが、市の考えはいかがか。

部長 日本の総人口が減少傾向にある中、二地域居住をする人が増えれば、1年のうち一定期間だけでも居住者を増やし、ひとの流れを生むことができる。本市の魅力や暮らしを知り、行事やイベントに参加してもらうことで、人材の

確保や経済の活性化、地域コミュニティの維持など、地方が抱える課題の解決につながる可能性があると考えている。

少子化対策の一要因としての婚活事業について

問 ふじのくに出会いサポートセンターしずおかマリッジについて伺う。

部長 5月末時点での県下全体の会員数は1,054人で、男性642人、女性412人。富士宮市民は33人で男性25人、女性8人。令和4年度から令和6年5月末までの成婚数は、55組110人、うち富士宮市の方は1人となっている。

問 社会福祉協議会の結婚相談所の成果について伺う。

部長 令和3年度は相談件数807件、成婚数2件、令和4年度は相談数850件、成婚数1件、令和5年度は相談数776件、成婚数1件。

意見 結婚を望むがチャンスに巡り合わない人たちに、行政として寄り添うことはとても大切なこと。婚活事業に更に力を入れるべき。



いわむら
岩村
(無党派)

えみ
恵美



日本の水を汚染しているPFAS（有機フッ素化合物）に関する富士宮市の対応

問 市が実施した調査と調査結果について。

部長 潤井川のくすのき橋2.6ng/l、芝川の横手沢橋2.0ng/l、芝富橋2.3ng/lの3地点で調査を実施。暫定目標値の50ng/lを下回っている。

問 河川や水道用原水の調査も問題なかったということであるが、これらの調査結果を市民が簡単に閲覧できるようにすることは可能か。

部長 県が実施した河川調査の結果は県が公表しているが、市のホームページにおいても県の情報をまとめて掲載したいと考えている。

問 今まで問題にならなかった物質が国から検査するように求められた場合、各々の部署があるが、どういう情報管理、情報共有、共通認識を持つのか。

副市長 今、部長会議というものを頻繁に行っている。その中で、今起こっていることをみんなでも共有しようと。自分事として自分の部に置き換えたならどうなのかと意識をもって取り組んでいる。

意見 私たちが積み重ねてきたツケを誰が払わされていくのか、便利、簡単、安価なものを求めた結果、今どうなっているのか。日本全国の水は本当に安全で美味しい水なのかどうか、しっかり考えて対策しなければならない。

市内小中学校の英語教育について

問 小学校外国語専科教員は、現在何名いるか。

教育長 現在市内小学校では、県費の加配教員として、英語の教員免許状を持つ専門性の高い専科教員5名が配置され、週24時間の授業を担当している。固定が1名、複数校兼務が4名。

問 毎年英語圏への海外研修を行っているが、研修先及びカリキュラムはどのようなか。

教育長 イギリスの私立の語学学校に、毎年2名～3名の教職員を派遣している。